

朝顔市

7月の6~8日にかけて入谷で朝顔市が開催された。

もともと入谷の朝顔というのは江戸時代、文化・文政の頃、入谷の植木屋が世に広めたとされている。鬼子母神のある通りがメインとなっているようで、たくさんの人で賑わっていた。入谷の鬼子母神は何かにつけて有名ではあるが、「恐れ入谷の鬼子母神」と呼ばれる由来は、昔、ある女が腰に大きな腫物をつくり、医者にも見放されたことから、入谷の鬼子母神に通い詰めて、祈っていたとのこと。そうしているとある日、この女が道でつまずき、腰を強く打ったことから、腫物の口が破れ、膿が全部出て完治したという、この一連の出来事を当時活躍していた狂歌師、大田南畝が聞きつけ、「恐れ入谷の鬼子母神」と洒落をいったのがこの文句の誕生なのである。狭い歩道に何十店もの朝顔を売る業者達が立ち並び、自分たちの朝顔が1番だと言わんばかりに大声を出していた。おおよそ2500円ぐらいで売られている淡いピンクや紫色をした朝顔を得意げに購入して、持ち歩いている人が、この日も非常に多く見受けられた。あいにく行ったのが午後だったので、朝顔たちはみんな萎れていたのだ



が。

私が一番興味深いと思ったのは、この朝顔市に若い人たちもたくさん訪れていたということである。入谷という、私も含めおそらく多くの若者にとってあまりパツとしないであろう街で、ましてや朝顔市場だなんて、一見、若者とは無縁にも感じられるが、案外国内外からの若者が多く見受けられた。こういった歴史ある行事に若い人が興味を持ったり、参加してみたりするのもなかなか良いことではないだろうか。

ウェバー伊安

